

平成24年  
1月31日

# 病害虫発生予報 2月号

茨城県病害虫防除所  
茨城県植物防疫協会

農薬は専用の保管庫に鍵をかけて保管するなど、  
適切に管理しましょう。

## < 目次 >

### I. 今月の予報

#### 【注意すべき病害虫】

イチゴ：うどんこ病，ハダニ類	1
促成ピーマン：斑点病，アザミウマ類	2
施設野菜（イチゴ，促成ピーマン，促成トマト，促成キュウリ）：灰色かび病	3

【その他の病害虫】	3
イチゴ，促成トマト，促成キュウリ	

### II. 今月の気象予報

本文に記載されている薬剤は平成24年1月25日現在のものです。

最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」([http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm))で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel:029-227-2445

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

## I. 今月の予報

### 【注意すべき病害虫】

#### イチゴ

##### 1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 1月下旬現在、発病果率は平年より高く、発病葉率は平年よりやや高い。
- ② 1月下旬現在、発生地点率は、果実で平年より高く、葉で平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
- ② 罹病部は新たな伝染源となるため、できるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して処分する。
- ③ 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。
- ④ 発病を予防するため、硫黄のくん煙剤処理による省力的な方法もある。
- ⑤ ミツバチに影響する薬剤もあるので、十分注意する。
- ⑥ 薬剤によっては、果実に汚れが付くものもあるので、十分注意する。

##### 2. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 1月下旬現在、被害葉率、発生地点率ともに平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、同一薬剤の連用を避ける。
- ③ ミツバチに影響する薬剤もあるので、十分注意する。
- ④ 天敵農薬としてミヤコカブリダニ剤やチリカブリダニ剤を使用する場合、効果を発揮できる適温は15℃以上である。ハダニ類の生息密度が高くなってからの放飼では十分な効果が得られないこともあるので、発生初期から放飼する。また、天敵放飼後の薬剤防除は天敵への影響に十分注意する。

## 促成ピーマン

### 1. 斑点病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 1月下旬現在、発病度は平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難になるため、発生が少ないうちに防除を徹底する。
- ② 罹病部は新たな伝染源となるため、病斑の多い葉は取り除き、ハウス外に持ち出して処分する。
- ③ 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう、十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。

### 2. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 1月下旬現在、寄生花率は平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。また、各種ウイルス病を媒介するので注意する。
- ② 薬剤は、薬液が葉裏や花にもかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、系統の異なる薬剤を散布する。

施設野菜（イチゴ、促成ピーマン、促成トマト、促成キュウリ）

1. 灰色かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 1月下旬現在、促成キュウリにおける発生量は平年並～やや多く、促成トマト、促成ピーマンにおける発生量は平年並、イチゴにおける発生量は平年並～やや少ない。
- ② 気象予報によると向こう1か月の降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想され、発生を助長する条件ではない。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハウス内が多湿になると発生が助長されるので、換気、送風、暖房等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 花落ちが悪い花卉や、罹病部は早急に取り除き、ハウス外に持ち出して処分する。
- ③ 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
- ④ 薬剤散布は、薬液が乾きにくくなる午後からは行わず、晴れた日の午前中に行う。また、曇雨天が続き薬液が乾きにくい場合は、くん煙剤を利用する。
- ⑤ 薬剤は、十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	炭疽病	発生量：やや多い	1月下旬現在、平年よりやや多い発生である。
	アブラムシ類	発生量：平年並～やや多い	1月下旬現在、平年並～やや多い発生である。
促成トマト	黄化葉巻病	発生量：やや多い～多い	1月下旬現在、平年よりやや多い～多い発生である。発病株はただちに抜き取り、媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。
	ハモグリバエ類	発生量：やや多い	1月下旬現在、平年よりやや多い発生である。
促成キュウリ	菌核病	発生量：やや多い	1月下旬現在、平年より多い発生である。向こう1か月の降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想され、発生を助長する条件ではない。

## Ⅱ. 今月の気象予報

### 関東甲信地方1か月予報

(予報期間 1月28日から2月27日)

気象庁(1月27日 発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	50	30	20
降水量	関東甲信全域	40	40	20
日照時間	関東甲信全域	20	40	40

[概要]

1週目は気温がかなり低くなる見込みですが、2週目は気温の低い状態は一旦解消するでしょう。平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

<1週目の予報> 1月28日(土曜日)から2月3日(金曜日)

気温 関東甲信地方 低い確率80%

<2週目の予報> 2月4日(土曜日)から2月10日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率40%

<3週目から4週目の予報> 2月11日(土曜日)から2月24日(金曜日)

気温 関東甲信地方 低い確率50%

### 農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず、良く洗浄しましょう。